

U.N.I.T. 宣言

I. 分析

1. 分析（解体と崩壊）は総合（芸術の統合）のまえに続けられなければならない。
2. 芸術は、この道を自然（受継がれた形態に関して）から始まり、つぎのようなさまざまなイズムを通過していく。
 - a) 印象主義は色彩と線の分析をした
 - b) 未来主義は運動と時間の分析をした
マリネッティ - ボッチョーニ
 - c) 表現主義は基本的形態と感情の分析をした
カンディンスキー - クレー
 - d) ダダは分析のモードとして破壊を追究した
ツアラ - シュヴィッターズ
 - e) キュビズムはマッサと空間の問題から素材と幾何学的形態へと前進した
ピカソ - オザンファン
 - f) ロシア構成主義は基本的形態と基本的構成のイデオロギーに到達するまで前進した
マレーヴィチ - リシツキー
 - g) ワイマール・バウハウスは建築的理論を与え、工房のマイスターに新しいモラルを与えた
グロピウス - アルバース
 - h) オランダのデ・ステイルは水平と垂直の装飾的な様式を産んだ
ファン・ドゥースブルフ - フルッサール
3. こうして分析のプロセスは、厳格な幾何学的形態と平面的形態を、スペクトルの色彩と白・黒のスケールに到達させた。
4. これらの要素はこれ以上分解しないだろう。したがって、分析の時代は終わった。
5. （同様に19世紀の科学的な仕事も研究や記録や分類が行われる。）
6. 一方、20世紀においては科学的に供給がなされる（技術、社会学、医学）

上記の分析についてさしたる異論はない。U.N.I.T.宣言に与えられた役割はこれからK.U.R.I宣言と同様の方法を用いてメディアにおける自然について分析を行っていくことである。21世紀における造形的思考の基礎を考察するための旗となることを意図し、K.U.R.I宣言における「II.総合」を以下のように改訂する。

II. 総合

7. 芸術は統合されたときにのみ、ふさわしい状態であるべきだ。
8. 総合芸術は人間の活動の最も高次なもの、つまり建築である。またパーソナルコンピューターは、今や人間の活動の最も高次なものである。つまり総合技術である。
9. 人が石、セメント、鉄、ガラス、木などを結合し、破壊された自然を創造することにおいて総合するということは、幾何学の法則にしたがって分析された空間を構成をすることであった。
10. 人の新しい考えのための功利主義の実現は、建築においてもパーソナルコンピューターにおいても未来に向かってどこまでも活動中である。
11. 感情（倫理的、美学的）のユートピア的思考の追究という主題の代わりに、物質的主题（触ることのできる）を確立すること、したがって、理性的であるということは確かに必要である。
12. パーソナルコンピューターに対する世界中の切望は、新しい鉄鋼の作品や塔が空に向かって伸びていくようなすべてのメッセージに対する感情を補完する存在であることであり、そのことはわれわれのメディアを熱くする。

13. K.U.R.I. のように建築のコンセプトを強調することは重要であるが、すでにそれが破壊的な芸術のこぼ遊びや功利的な企業の指標となっていることを恐れるべきである。
14. だからこそ、われわれはパーソナルコンピューターの一部を担っていくべきなのだろうか。
15. パーソナルコンピューターは3つの側面からなる。
 - a) 機能的 - 経済的 - 省略された意味・整理された値
 - b) 構造的 - 数学的 - 埋め込まれた升目・構成された直線
 - c) 精神的 - 内容 - 必要のない欲求・個人的な選択
16. 3つの要因のすべては、パーソナルコンピューターが利用される条件において、複数の偶然を強調する。
17. これらの基本的な条件（≡当事者意識）は、全体と個別の部分の関係の痕跡を残す。
18. 建物の素材、構造、形、色、そしてリズムは、部分の形、色、素材とリズムをいまだに決定し続けている。
19. こうして、われわれは、18の方法によってつくられた建築の構成要素として絵画や彫刻や工芸を理解している。
20. そしてこれらに含まれる状態は自由であり、主題の表現は終わりのないところにある。
21. 以上のことをふまえて、われわれはUnitという条件とその法則の果てを提示する。
22. Kuriは技術の達成を芸術と結合することを目指した。
23. 故にわれわれはいま機械的な絵画や動く造形、空間と形態を変化させてくれるような建築に触れることができるようになっている。
24. しかしながら当事者意識に関しては、最後には、建てかえるのではなく、従来の静的な芸術に引き継がれるべきである。
25. 法則は偶然的なものであり、また行為的で限定的なもの。そして、
統合され
記譜的で
内包された
触知できる
誰しにも利用されるメディアを用いながらも
Unit、それぞれに、分類されない
目印である
Unit !
途切れることなく送受信される情報の中で：
Unit のしるしは新しい圏からのメッセージ。
Unit

東京、2019年3月2日

佐々木樹、田巻海（日本）